

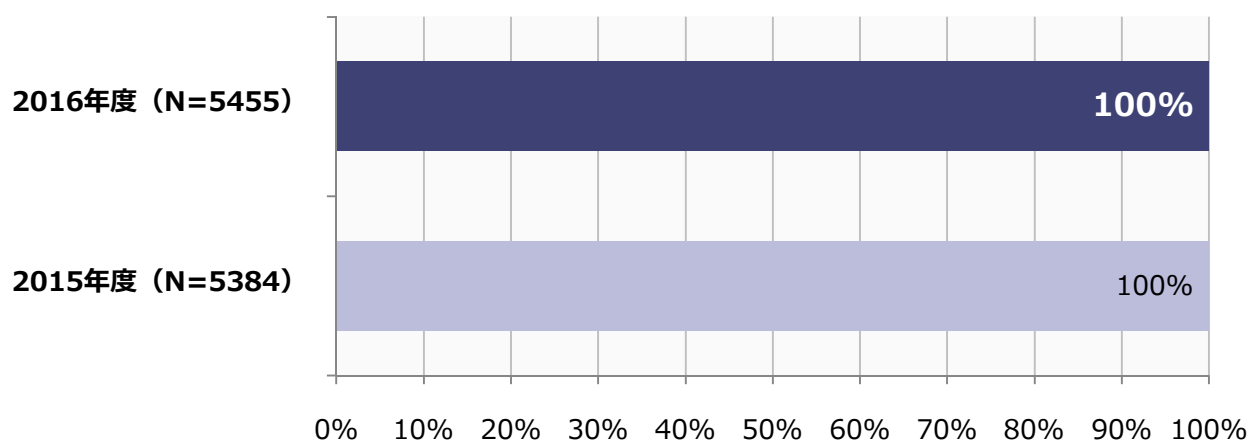
# 細胞診標本のダブルチェック

病理診断の重要な分野である細胞診断における精度管理の状況を示す指標です。

この指標の高い数値を維持することは、単に診断報告書の精度の向上だけではなく、検体の採取、標本作製、鏡検、報告、報告書の管理や病理組織診断の整合性の検証も含め一連の細胞診業務が複数の専門家の相互確認によりの確に実施されていることを意味します。

細胞診は組織診と共に病理診断の中心となる業務です。細胞診は幅広く検診業務に用いられる他、確定診断のための精査においても用いられ、低侵襲的であると同時に組織検体を得ることの出来ない体腔液、分泌物等の精査でも組織診断を補完する重要な役割を果たしています。

通常、細胞診は臨床検査技師の中で特別な資格試験に合格した細胞検査士によるスクリーニングと細胞診専門医資格を有する医師による診断確定のプロセスを経て臨床現場へ報告されます。



## 当院値の定義・算出方法

**分子：** 細胞診を実施した件数

**分母：** 細胞診標本を2名以上の細胞検査士あるいは細胞診専門医が鏡検したのちに最終報告を行った件数

×100 (%)

※グラフ中のN数は分母の値を示しています。

## 結果の考察と今後の取り組み

現在、100%の達成率であり、順調に精度管理されている。しかしながら、このような高い達成率は、練度の高い細胞検査士を複数擁する施設のみ可能であり、しかも医療技術の進歩、特に詳細な組織型やゲノム情報に基づくがん医療の進歩はめざましく、引き続きこの状況を維持出来るよう、スタッフの育成、個々の教育研修に努めていく必要がある。

文責：病理診断科主任部長  
加藤 誠也